

2012年度（平成24年度）

# 事業報告

2012年4月 1日から  
2013年3月31日まで

社団法人 部落問題研究所

「2012年度事業報告」目次

1	部落問題に関する各種の調査研究	1
(1)	部落問題の歴史的研究	1
(2)	現在部落問題論・人権論の研究	2
(3)	人権と教育に関する理論的・実証的研究	3
(4)	人権に関わる文芸の研究	3
2	部落問題関係資料の収集・保存・整備及び紹介に関する事業	4
(1)	部落問題関係資料の収集	4
(2)	資料室の整備・充実	4
(3)	研究図書資料の収集	4
(4)	関係図書の紹介	4
3	関係図書の編集・刊行に関する事業	4
(1)	『人権と部落問題』を毎月2500部、増刊号を含めて年14回刊行した	4
(2)	紀要『部落問題研究』の201, 202, 203, 204輯を各800部刊行した	5
(3)	関係図書の編集と発行	5
4	講習会・講演会・研究会の開催及び講師の斡旋に関する事業	5
(1)	研究会の開催	5
(2)	第50回部落問題研究者全国集会	6
5	庶務事項	6
	臨時総会、役員会、評議員会、監事監査、委員会、会員の移動状況等	

## 2012年度事業報告

### 1 部落問題に関する各種の調査研究

#### (1) 部落問題の歴史的研究

地域における人権・民主主義をめぐる状況や運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から21世紀の現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、各時代の全社会構造の中で具体的に把握する研究に取り組んだ。

前近代分野では、身分的周縁研究と「賤民」身分研究を、地域社会の構造とその展開との関連において、また身分(制)社会全体の構造の中でとらえること、近現代分野では、人権と民主主義の歴史的展開とその特質を明らかにすることを軸とした地域史の再構成をめざすことや、近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を解明すること、などの方針をそれぞれ掲げ、科学研究費助成事業(科研費)の交付を受けて遂行されている共同研究①②と連動しながら研究を推進した。

#### ①基盤研究(B)「身分・身分的周縁と部落問題に関する地域史的研究」

(研究代表者・鈴木良、2009～2012年度)

#### ②基盤研究(B)「近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関する総合的研究」

(研究代表者・廣川禎秀、2012～2016年度)

最終年度をむかえた①においては、前近代から近現代に至る地域社会構造の一貫した把握という方法により、日本社会における部落問題の形成、展開、解決の過程を実証的に明らかにすることを課題として、15名からなる研究組織を編成して研究を進めてきた。さらに、①の成果を発展的に継承することも目的として17名からなる研究組織で新たに開始した②では、近代日本における地域社会の構造的変貌と民衆運動の多様な展開について、その相互関係を重視して総合的・実証的に、また前近代から現代までを射程に入れた長期的な視野の中で明らかにする共同研究を進めている。

前近代分野で部落問題研究所は、部落問題研究者全国集会歴史I分科会などを通じて、身分と身分的周縁研究の中心的な位置を占めてきた。第49回研究者集会(2011年10月)では「前近代における身分史研究の発展をめざして」をテーマに検討を行い、その成果を『部落問題研究』201特別号及び202輯に掲載した。2012年10月開催の第50回研究者集会では「流通と身分的周縁」をテーマに具体的な報告・議論を行った。

一方、近現代分野でも地域史や社会運動史の再構成をめざして研究を進めてきた。

「『行き倒れ』と近現代の日本社会」をテーマに掲げた第49回研究者集会歴史II分科会の成果を『部落問題研究』201特別号に、また、研究会「大都市における警察行政と地域社会・地域支配—戦前期の東京と大阪の研究—」(2012年3月)の成果などを同誌203輯に掲載した。また、第50回研究者集会では、近現代都市史研究の課題を提示した「地域支配構造の発展」をテーマとする全体会、及び「戦時・戦後の『医療』・医療運動と民主主義的主体形成」をテーマとする歴史II分科会を開催した。

こうして、前近代史、近現代史それぞれの成果を統合して、地域社会構造を前近代から

近現代まで一貫してとらえようとする研究を、科研費研究①②とも連動しながら進めてきた。

以上のような研究方針・活動のもと、歴史研究会、及び第50回研究者集会全体会、同歴史Ⅰ・Ⅱ分科会を、科研費研究会とも連動（共催）しながら、以下の通り開催した。

【歴史研究会】 ＊いずれも会場は部落問題研究所

7月22日 鈴木 良：近代都市史の方法—前近代史研究に学ぶもの

9月23日 松岡 弘之：総力戦下のハンセン病療養所—長島愛生園における—  
鬼嶋 淳：1950年代の農村医療運動と地域社会

9月30日 塚田 孝：近世大坂の非人と人別帳

11月24日 松尾 寿：近世隠岐流人論

2月 2日 藤本清二郎：近世城付かわた村の生活史—牢番頭助左衛門家の商業・利  
貸経営—

町田 哲：近世後期徳島藩における牛馬皮の流通と取締

【研究者集会】 10月27～28日（同志社女子大学）

10月27日 全体会 鈴木 良：地域支配構造の発展

10月28日 歴史Ⅰ分科会 〈流通と身分的周縁〉

原直史：市場と身分的周縁—大坂鞆を中心に—

島崎未央：近世和泉における種物の流通構造—絞油屋仲間と「素人」の関  
係分析を中心に

歴史Ⅱ分科会 〈戦時・戦後の「医療」・医療運動と民主主義的主体形  
成〉

松岡弘之：総力戦下のハンセン病療養所—長島愛生園における—

鬼嶋淳：1950年代における農村医療運動の展開と地域社会—埼玉県大井  
医院を中心に—

## （2）現代部落問題論・人権論の研究

【現代部落問題論・人権論研究会】 ＊会場は部落問題研究所

年来のテーマである部落問題解決過程に関する問題などを取りあげて研究会を開き、報告・討論を行った。

12月22日 碓井敏正「現代人権論の課題」

2月22日 和田 栄「西日本のある農村部落の30年」

【研究者集会】 10月28日（同志社女子大学）

第50回部落問題研究者全国集会「現状分析・理論分科会」では、「同和行政終結の課題と『人権救済機関』設置問題」のテーマを設定した。本分科会では、同和行政終結に関する問題、地域における人権諸課題への取組みの問題、その他人権課題に関する問題を報告テーマとして取りあげてきたが、今回もこれを踏襲して以下の三報告をうけ、意見交換を行なった。

10月28日 前田 武「兵庫県における同和行政終結の取り組み」

新井直樹「人権委員会設置法をめぐる問題と機関のあり方」

蔡 秀卿「人権委員会設置法案と人権擁護委員法改正案について」

### (3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究

#### 【教育研究会】 ※会場は部落問題研究所

教育研究会では、適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

6月17日 八木英二「国際社会における教育権論の動向」

9月 9日 杉浦真理「シティズンシップ教育入門」

12月23日 山田 稔「大津市における中学生の自殺といじめについて考える」

2月17日 八木英二「『人権教育』の2011国連宣言と世界計画にみる『人権としての教育』」

#### 【研究者集会】 10月28日（同志社女子大学）

第50回部落問題研究者全国集会の「教育分科会（テーマ「子どもの権利と教職員の人権）」では、次の二つの報告にもとづき、活発な論議を展開した。

世取山洋介「子どもの権利—意見表明権の意義を中心に」

土屋基規「大阪府・市の『教育基本条例』の教育法的批判—教職員の人権を中心に」

2010年度に採択された科学研究費助成事業「人権教育の構成概念と構造に関する基礎的研究」（2010年度～2012年度／研究代表者・梅田修）による研究成果の一端を『部落問題研究』第204輯（特集「人権教育をめぐる動向と課題」）で報告した。

### (4) 人権にかかわる文芸の研究

#### 【文芸研究会】 ※会場は部落問題研究所

従来通り隔月に例会（第183～187回）を開催してきた。各回の日時・報告者およびテーマは次に示すとおりである。

第183回（5月20日）

秦 重雄著『挑発ある文学史』（かもがわ出版刊）の講評会

第184回（7月16日）

秦 重雄「成瀬無極の部落問題を扱った戯曲と随筆」

第185回（9月30日）

次回研究者集会分科会の予備討議

第186回（1月13日）

秦 重雄「高山文彦著『どん底 部落差別自作自演事件』を読む」

第187回（3月17日）

秦 重雄「宮崎学・小林健治共著『橋下徹現象と部落差別』を読む」

なお、上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、通算157回を数えている。

#### 【研究者集会】 10月28日（同志社女子大学）

第50回部落問題研究者全国集会・「思想・文化」分科会では、〈テーマ：再生の時代に寄せて〉に基づき、次の報告と討議を行った。

確井敏正「権利と倫理の間—権利論の新展開」

稲垣広和「室生犀星『幼年時代』論—差異化する『私』のまなざし」

### 3 部落問題関係資料の収集・保存・整備及び紹介に関する事業

#### (1) 部落問題関係資料の収集

歴史・現状・運動・行政・人権・教育・文芸に関する資料の収集を進めた。

#### (2) 資料室の整備充実

2012年度は、閲覧利用の便利向上のため、第1資料室（開架式）の書架の整理を進め、完了に近づいている。また、新設準備中の第2資料室（閉架式）に収蔵する図書・資料について分類し一部分について「未整理図書・資料目録」を作成した。

#### (3) 研究図書資料の収集

『講座・人権論の再定義』全5巻（法律文化社）他7点の図書を購入した。

#### (4) 関係資料の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

### 4 関係図書の編集・刊行に関する事業

#### (1) 『人権と部落問題』を毎月2500部、増刊号2冊をふくめて14回刊行した。特集のテーマは、次の通りである。

「憲法と国民生活」（5月）

「人権教育を考える」（6月）

「女性の人権—働く女性の現状」（7月）

「労働者の人権—いのち削られる労働現場」（8月）

「教職員の人権」（9月）

「現代の貧困と生きる権利」（9月増刊）

「子どもの人権」（10月）

「地域と人権」（11月）

「高齢者の人権」（12月）

「環境問題と人権」（1月）

「沖縄から—平和と人権を問う」（2月）

「同和行政の終結と住民自治」（2月増刊）

「『3・11』が問いかけること」（3月）

「子どもの人権と学校」（4月）

連載「世界のくらしと文化」は、次の通りである。

「モンゴル—家畜から畜産物を得て食べるという営み」（5月）

「モンゴル—モンゴル遊牧民の食事」（6月）

「モンゴル—遊牧社会の子どもと家族」（7月）

「ナイジェリア—出会う—異なる文化、同じ人間」（8月）

「ナイジェリア—装う—『見せびらかし』の価値観」（9月）

- 「ナイジェリアー稼ぐー理想と現実のはざま」 (10月)  
「ナイジェリアー祈るー『もっともハッピー』な人たち」 (11月)  
「ドミニカ共和国ー『野球移民』誕生」 (12月号)  
「ドミニカ共和国ーお金を稼ぐ方法」 (1月号)  
「ドミニカ共和国ー地域を救済する大リーガー」 (2月号)  
「ドミニカ共和国ー分かちあう社会へ」 (3月号)  
「ブルガリア共和国ー『ヨーグルト大国』の光と影」 (4月号)
- (2) 紀要『部落問題研究』の201、202、203、204輯を各800部、4回刊行した。主な論考は、次の通りである。
- 201輯 第49回部落問題研究者全国集会報告  
202輯 半田秀男「ベンサム・『法と経済学』・三浦判決」  
志村 洋「摂津西宮神社における神職争論と支配」  
203輯 佐賀 朝「居留地付き遊郭の社会構造」  
大日方純夫「首都東京における警視庁の地域支配」  
204輯 八木英二「『人権教育』の2011国連宣言と世界計画にみる『人権としての教育』」  
生田周二「人権・シチズンシップ教育の動向と課題」  
梅田 修「人権教育政策の展開と人権教育の実践的探求」  
川辺 勉「地方自治体における人権教育政策の動向」  
谷口幸男「和歌山県における中学校の人権教育の分析」  
河瀬哲也「子どもの人権と教育実践」
- (3) 関係図書の編集と刊行  
2012年度は、図書の刊行ができなかった。

## 5 講習会・講演会・研究会の開催及び講師の斡旋に関する事業

### (1) 研究会の開催

歴史、現状分析・理論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は各研究会の項参照）。

- 2012年5月20日 文芸研究会  
6月17日 教育研究会  
7月16日 文芸研究会  
7月22日 歴史研究会  
9月 9日 教育研究会  
9月23日 歴史研究会  
9月30日 歴史研究会  
9月30日 文芸研究会  
10月27日 第50回部落問題研究者全国集会全体会（同志社女子大学）  
10月28日 第50回部落問題研究者全国集会分科会（同志社女子大学）  
11月24日 歴史研究会

- 1 2月22日 現状分析・理論研究会
- 1 2月23日 教育研究会
- 2013年1月13日 文芸研究会
- 2月 2日 歴史研究会
- 2月17日 教育研究会
- 2月22日 現状分析・理論研究会
- 3月17日 文芸研究会

(2) 第50回部落問題研究者全国集会

2012年10月27日(土)～28日(日)に、同志社女子大学(京都市)で125名の参加を得て開催した。全体集会(一日目)では、鈴木良(部落問題研究所)の問題提起「地域支配構造の発展」にもとづいて、活発な議論を展開した。二日目は、5分科会(歴史Ⅰ、歴史Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化)ごとに報告・討論を行った。

6 庶務事項

(1) 臨時総会

2月10日に臨時総会を開催し、次の議案を審議し、議決した。

- ①2011年度事業報告
- ②2012年度事業計画
- ③評議員選出の件
- ④公益社団法人認定申請の件
- ⑤公益社団法人認定申請の主な内容(公益事業内容)の件
- ⑥「公益社団法人部落問題研究所定款(案)」の件
- ⑦収支改善遂行に関する決議の件

(2) 役員会

1) 理事会は11回開かれ(於: 部落問題研究所)、研究所の事業運営について審議し、執行した。

第1回 議事 ①理事長・常務理事選任の件  
(4月29日)

第2回 議事 ①第50回部落問題研究者全国集会について  
(8月8日) ②入退会者等、会員の動向について

第3回 議事 ①公益法人認定のための申請書類について  
(9月7日) ②会費規程の改定について  
③所屋維持積立金の取り崩しについて

第4回 議事 ①公益法人認定申請について  
(10月10日)

第5回 議事 ①定款の改定について  
(10月27日) ②「役職員通勤費・出張費・出張手当・研修旅費規程」および「役職



員以外の交通費・旅費に関する規程」について

- 第6回 議事 ①臨時総会の開催について  
(11月16日) ②借地取得等積立金の取り崩しについて
- 第7回 議事 ①部落問題研究所発行図書(含雑誌)の廃棄処分について  
(12月14日) ②定款改定(案)について  
③財政問題について
- 第8回 議事 ①臨時総会の開催について  
(1月11日)
- 第9回 議事 ①臨時総会議案について  
(2月8日) ②評議員選出について  
③「収支改善計画」遂行に関する決議(案)について  
④所屋維持積立金の取り崩しについて  
⑤社団法人高知雇用開発センターからの贈与の受領について
- 第10回 議事 ①公益法人認定のための申請書類について  
(3月22日) ②総会開催について
- 第11回 議事 ①2013年通常総会議案について  
(4月19日)

2) 評議員会は、2月10日に開催し、2012年度臨時総会に附議する原案を審議した。また、4月28日に開催し、2013年通常総会に附議する原案を審議した。

3) 監事(4名)は、2月7日、2011年度の業務執行状況、財産状況等について監査し、これを承認した。また、4月26日、2012年度の業務執行状況、財産状況等について監査し、これを承認した。

(3) 委員会

2006年度より委員会体制を整理して、二つの委員会体制(編集委員会・研究委員会)をとっている。編集委員会を12回、研究委員会を6回開催し(於:部落問題研究所)、所管の事項を審議した。

(3) 所内会議

6回開催し、部落問題研究所の事業の運営について、適宜協議した。

(4) 会員の異動状況

2011年度末の会員総数は、440名で、その内訳は、正会員402名(維持会費を支払う正会員26名、1団体を含む)、賛助会員34名(団体を含む)、特別会員4名であった。

2012年度の入会者は、正会員7名(うち3名は維持会費も支払う正会員)、退会者は27名(うち3名は維持会費も支払う正会員)である。退会者が多かった主な要因は、会員の高齢化や退職である。

2013年4月  
社団法人 部落問題研究所